昔むかし、あるところに、ジャックという男の子がいました。

ある朝、 ジャックは、 幸運を探しに出かけました。 たいして行かないうちに、 ねこに会

いました。

「どこ行くの。ジャック」と、ねこはいいました。

「幸運を探しにいくんだ」

「いっしょに行ってもいい?」

いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、 ジャックとねこは、とっとこ、とっとこ歩いていきました。

少し行くと、犬に会いました。

「どこ行くの。ジャック」と、犬はいいました。

「幸運を探しにいくんだ」

「いっしょに行ってもいい?」

いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、 ジャ ックとねこと犬は、 とっとこ、 とっとこ歩いていきました。

少し行くと、やぎに会いました。

「どこ行くの。ジャック」と、やぎはいいました。

「幸運を探しにいくんだ」

「いっしょに行ってもいい?」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、 ジャックとねこと犬とやぎは、 とっとこ、 とっとこ歩いていきました。

少し行くと、牡牛に会いました。

「どこ行くの。ジャック」

「幸運を探しにいくんだ」

いっしょに行ってもいい?」

いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、 ジャックとねこと犬とやぎと牡牛は、 とっとこ、 とっとこ歩いていきました。

少し行くと、おんどりに会いました。

「どこ行くの。ジャック」

「幸運を探しにいくんだ」

「いっしょに行ってもいい?」

「いいよ。多ければ多いほど楽しいからね」

それで、 ジャ ックとねこと犬とやぎと牡牛とおんどりは、 とっとこ、 とっとこ歩い

てい

きました。とっとこ、とっとこ、とっとこ、とっとこ。

た。 そのとき、 歩いていくうちに、 ジャックはもどってきて、みんなにいいました。 こっそり窓からのぞいてみました。家の中では、どろぼうたちがお金を数えていまし 家が一軒見えました。ジャックは、みんなを待たせておいて、 暗くなってきました。どこかに泊まらなくてはなりません。 家のそばまで行 すると、

「こっちへおいで。 ぼくが合図したら、 みんなでいっせいに、 思い っきりさわぎたてるん

ジャックが

だ

「準備はいいかい」ときくと、みんなは、

ると、 ベエ~、ベエ~、牡牛はウンモ~、 ツコーと、 「いいよ」と答えました。そこで、ジャックは合図しました。 ねこはミャオウ、ミャオウ、犬はウワン、ウワン、やぎは 鳴きました。みんな、 おっそろしく大きな声で鳴きま ウンモ~、 おんどりはコケコ す



暮らすことにしました。 どろぼうたちはびっくりして逃げていきました。 みんなは中に入っていって、その家で

ぎは二階に、 えました。 れども、 そこで、 牡牛は地下倉に、 ジャックは、 寝る前に、 夜中になったらどろぼうたちが戻ってくるんじゃない ねこを揺りイスに寝かせ、 おんどりは屋根の上に寝かせました。 犬はテーブルの下に寝かせ、 それからべ ッドに入 かなと考

を待って、 さて、 どろぼうたちは、 仲間のひとりを家にさぐりに戻らせました。 なんとかしてお金を取りかえそうと、 あたりが まっ くらになる

ってきました。 ところがしばらくすると、さぐりに行った男があわてふためいて、まっさおになって帰

「おれ、家に入って、揺り椅子に座ろうとしたんだ。 そしたら、 そこでばあさんが編み物

をしててさ、針でおれをさしやがった」

これはもちろん、ねこでした。

「そんで、お金を探そうとテーブルのとこに行ったら、テーブルの下にくつ屋が隠れてて、

きりでおれをさしやがった」

これはもちろん、犬でした。

「それで、二階に上がってったら、 男が脱穀してて殻竿でなぐりたおしやがった」

これはもちろん、やぎでした。

「そいで、地下倉に下りてったら、 木を切っている男がいて斧でぶんなぐりやがった」

これはもちろん、牡牛でした。

「ああ、でも、家のてっぺんにいたあのちっちゃなやつの恐ろしいことといったら。 そい

こっちにやつを投げあげろー』ってさけぶんだ」

もちろんそれは、おんどりでした。

つ、『こっちにやつを投げあげろー、

おしまい

資料 『English Fairy Tales』 JOSEPH JACOBS

村上郁 再話